

為替相場展望

2011年10月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/>

【目 次】

為替相場概説	1
相場回顧	2
為替関連指標の動向	3 ～ 6
トピックス	7 ～ 9
見通し	10
資料	

◆本資料は2011年10月4日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆本資料に関するご照会は、下記あてお願いいたします。

欧米経済・市場動向グループ

井上 肇 (Tel : 03-3288-5314 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

為替相場概説 (2011年10月)

1. 相場回顧

<9月のドル円相場>

介入警戒感の強まりから9日に77円台後半まで円安が進行したものの、その後は、円じり高の展開に。21日のFOMCで米FRBが景気の先行きに厳しい見方を示したことから、22日には一時76.11円まで円高ドル安が進行。

<9月のユーロ円相場>

ギリシャのデフォルト懸念等を背景に、12日に103.90円までユーロ安が進行。その後、独仏首脳の説明等を好感して一旦ユーロが反発したものの、債務問題に収束の兆しが見えないなか、26日には一時101円台までユーロ安が加速。

2. 為替関連指標の動向

<日米独金利差>

米国の金利低下余地が乏しくなったため、ドル円では、金利面からのドル安圧力が緩和。一方、ユーロは、独金利が一段と低下し、対円、対ドルでユーロ安に作用。先行きについては、米欧ともに金利先高観が後退するなか、金利面からは、対ドル、対ユーロともに、円安への反転は期待薄。

<日米欧の貿易収支と生産>

8月の本邦貿易収支(原数値)は、3ヵ月ぶりの赤字に転落。実需面からの円高圧力はやや減衰。先行き、わが国では世界経済の減速や既往円高などにより、輸出が下振れするリスクがある一方、原発停止を受けた火力発電シフトによる燃料需要増により、輸入は高止まりする公算大。貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかる見込みで、当面、実需面からの円高圧力が和らぐ可能性。

7月以降、本邦鉱工業生産は足踏み状態に。もともと、先行き復興需要を背景に欧米対比でみた生産の日本優位が続く見込みで、生産面からは円高地合いに変化はない見通し。

<日本の対内対外証券投資動向>

日本の証券投資は、対内が堅調、対外が低調で、日本への資金流入超傾向が持続。当面、①世界的な景気の先行き懸念や欧州債務問題への懸念等を背景としたリスク回避の動きが続くと予想されること、②日米間をはじめとして内外金利差の拡大が当面期待薄であること、などから海外投資家からの日本国債への資金流入、本邦投資家の対外証券投資慎重化が続き、円高地合いをサポートする見込み。

<米国の証券投資・IMM通貨先物>

米国の証券投資は、米国への資金流入ペースが鈍化傾向。当面は、米景気の先行き懸念等を背景に、海外からの資金流入ペースの鈍化傾向が続く見込

みで、ドル安地合い。

IMM通貨先物では、円の買い越し残高が依然高水準。一方、ユーロの売り越し残高も高水準まで拡大。例年通り秋から年末にかけて、投機筋の持ち高調整が進めば、一時的に対ドルで円安、ユーロ高方向に振れる可能性はあるものの、円高、ユーロ安基調を変化させるには至らない公算。

3. トピックス

<米FRBの金融政策とドル円相場>

9月のFOMCで米FRBはツイスト・オペ導入を決定。足許、ドル円相場への影響はみられないものの、今後、ドル円相場が2年債利回りよりも5年債や10年債との相関が優勢となれば、米国での長期金利低下が円高ドル安圧力として作用するリスク。

<ECBの金融政策とユーロ相場>

9月の理事会でECBは利上げ姿勢を撤回。市場では一時ECBの利下げ観測まで台頭し、ユーロ安を助長。もともと、金利面からは足許のユーロ安水準は行き過ぎの感が否めず。この背景には、欧州債務問題を受けたりスク回避姿勢の強まりが指摘可能。欧州債務問題に収束の兆しが見えるまでは、今後も、折に触れリスク回避の動きが強まることが予想され、金利差に見合う水準から下振れしてユーロ安が進行する公算。

<本邦対外直接投資>

日本を取り巻く内外資金フローの動きに着目すると、経常収支黒字、証券投資は対内堅調、対外低調のなか、本邦企業の対外直接投資が足許にかけて増加傾向。政府の円高対策「円高対応緊急ファシリティ(基金)」も本邦企業の動きを後押しするなか、本邦企業による海外直接投資の増加が続けば、円高抑制に寄与。

4. 見通し

<ドル円相場の見通し>

米国での景気先行き懸念や追加緩和期待が根強いなか、当面76~77円台を中心とする円高値圏で推移する見通し。年末以降、米景気の失速懸念が後退するにつれて、徐々にドルが持ち直す見込みながら、米国で超低金利の長期化が見込まれるなか、ドルの本格上昇は期待薄。

<ユーロ円相場の見通し>

欧州債務問題への懸念、ユーロ圏の景気減速、ECBの利上げ姿勢撤回等を背景に、当面はユーロ軟調地合いが持続する見通し。欧州債務問題に収束の兆しが見えるまでは、ユーロが下振れしやすい展開が続く見通し。

相場回顧

ドル円は76～77円台でもみ合い。ユーロは欧州債務問題、E C Bの利上げ姿勢撤回等を受け、ユーロ安が加速。

＜9月のドル円相場＞

6日にスイス国立銀行が無制限介入によるフラン高阻止を表明したことを受けて、円に対する介入警戒感が強まり、9日に一時77円台後半まで円安が進行。その後は米景気の先行き懸念や追加緩和期待などを背景に、円じり高の展開に。21日のF O M Cで米F R Bが追加緩和を決定し、景気の先行きに厳しい見通しを示したことから、22日に一時76.11円まで円高ドル安が進行。月末にかけては、介入警戒感が強い一方で、輸出企業の円買いや世界景気の先行き懸念の強まりもあり、76～77円台でもみ合い。月末は77円台前半。

＜9月のユーロ円相場＞

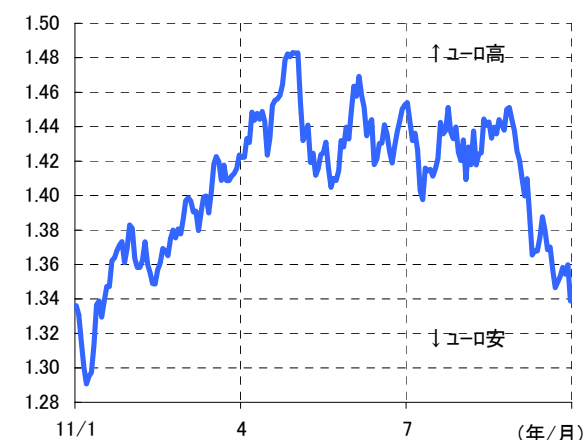
ギリシャのデフォルト・ユーロ離脱懸念、8日の理事会後のE C Bの利上げ姿勢撤回、9日のシュタルクE C B専務理事の辞任表明などを背景に、12日にかけて103.90円までユーロ安が進行。その後、14日の独仏首脳によるギリシャ支援・ユーロ離脱否定表明、15日の日米欧の中央銀行によるドル資金無制限供給発表などを好感して、ユーロが小反発したものの、米S & Pによる大手仏銀やイタリア国債格下げなどが相次ぐなか、26日にかけて2001年6月以来となる101.93円までユーロ安が加速。月末にかけては、ギリシャでの緊縮財政案可決、独議会でのE F S F機能拡充策承認などを好感して、ユーロが小反発。月末は103円台前半。

(円) ドル円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

(ドル) ユーロドル相場の推移



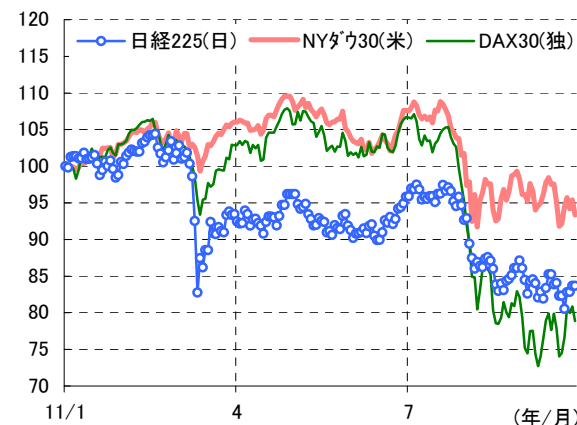
(資料)Bloomberg L.P.

(円) ユーロ円相場の推移



(資料)Bloomberg L.P.

(11/1/4=100) 日米独株価指数の推移



(資料)Bloomberg L.P.

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2011年10月

米欧の金利先高観が薄れるなか、金利面からは円安への反転は期待薄。

＜日米独 2 年債利回り＞

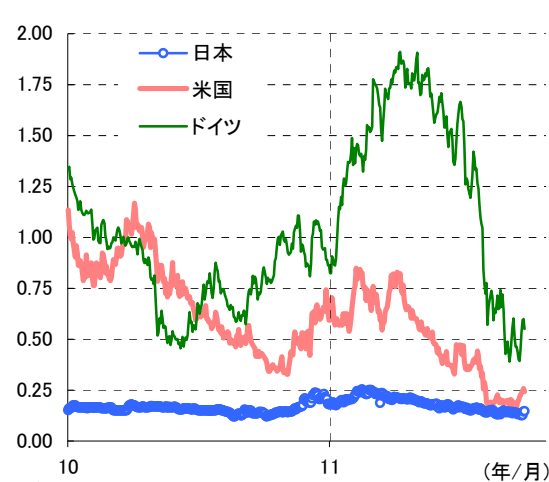
米 2 年債利回りは、9 月入り後低水準での底這いが続いたものの、21 日の F O M C で米 F R B がオペレーション・ツイストの導入を決定したことから、短期の金利が小幅上昇。独 2 年債利回りは、欧州債務問題への懸念、8 日の理事会後の E C B の利上げ姿勢撤回、市場での利下げ観測台頭などを受けて、一段と低下。もっとも、月末には欧州債務問題の対策進展への期待から、小幅上昇。この間、日本の 2 年債利回りは、底這い推移。

＜日・米・独金利差とドル・円・ユーロ相場＞

米国の金利低下余地が乏しくなったため、ドル円では、金利面からのドル安圧力が緩和。一方、ユーロは、独金利が一段と低下し、対円、対ドルでユーロ安に作用。

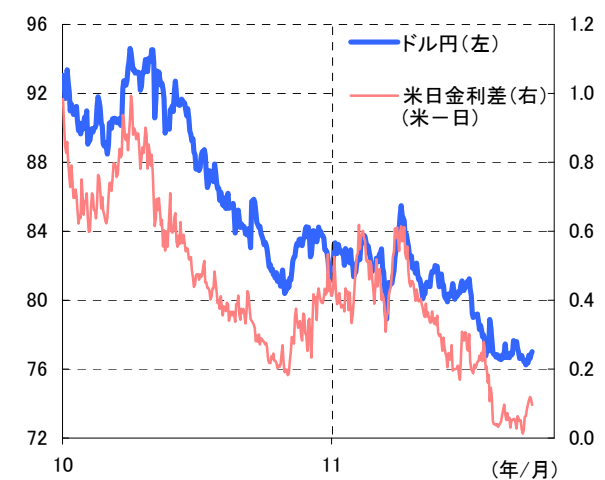
先行きについては、米国では、米景気の力強い拡大が期待薄のなか、F R B の事実上のゼロ金利政策の長期化が予想されるほか、米景気の先行き懸念が強まる場面では、Q E 3 等の量的緩和拡大への期待が高まる公算。ユーロ圏でも、景気の先行き懸念が強まるなか、E C B の利上げは見込み難い状況。金利面からは、対ドル、対ユーロともに、円安への反転は期待薄。

(%) 日米独 2 年債利回りの推移



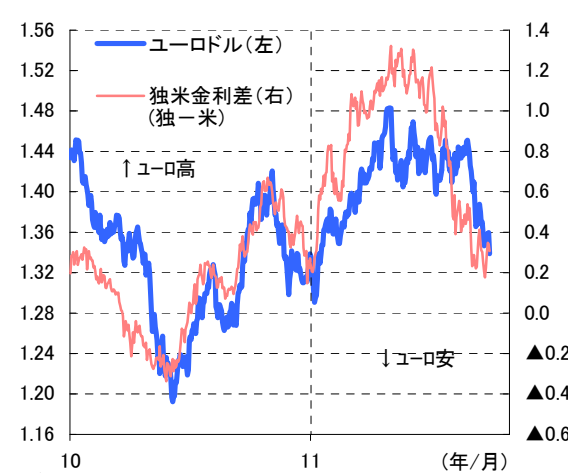
(資料)Bloomberg L.P.

(円) ドル円相場と米日 2 年債利回りの推移 (%)



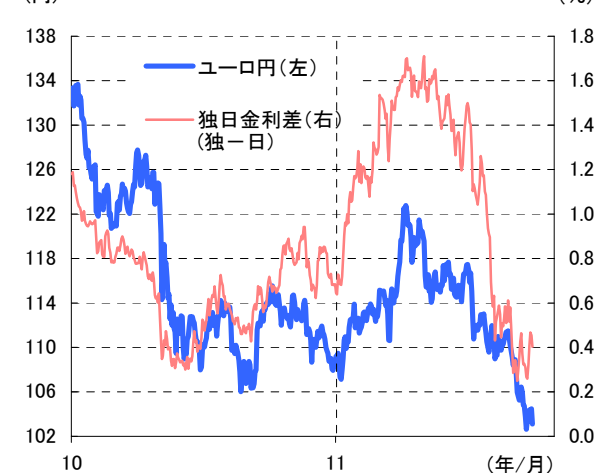
(資料)Bloomberg L.P.

(ドル) ユーロドル相場と独米 2 年債利回りの推移 (%)



(資料)Bloomberg L.P.

(円) ユーロ円相場と独日 2 年債利回りの推移 (%)



(資料)Bloomberg L.P.

本邦貿易収支の黒字基調回復にはなお時間。実需面からの円高圧力は和らぐ可能性。本邦生産は一旦足踏みも、円高地合いに変化はない見込み。

＜日米欧の貿易収支＞

8月の本邦貿易収支(原数値)は、▲7,753億円と3ヵ月ぶりの赤字に転落。工場の操業再開に連動して、輸出が6ヵ月ぶりの前年比プラスとなったものの、火力発電用燃料の需要増により輸入が急増。実需面からの円高圧力はやや減衰。

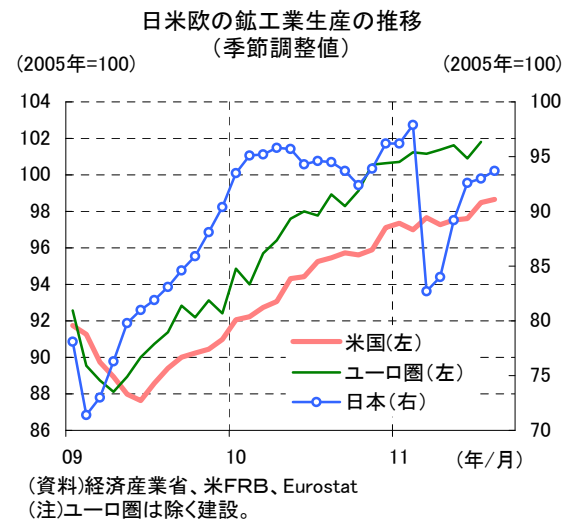
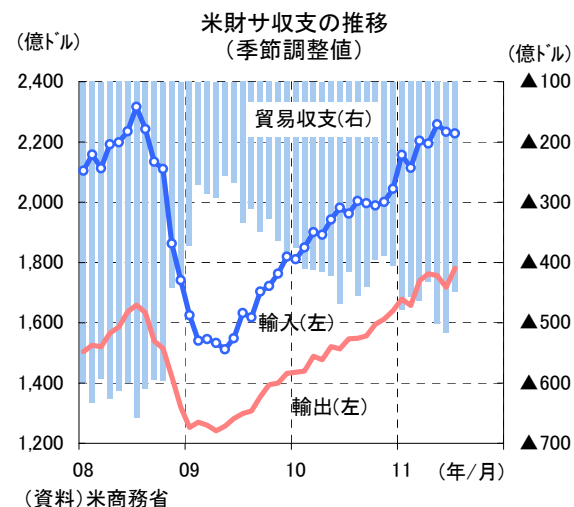
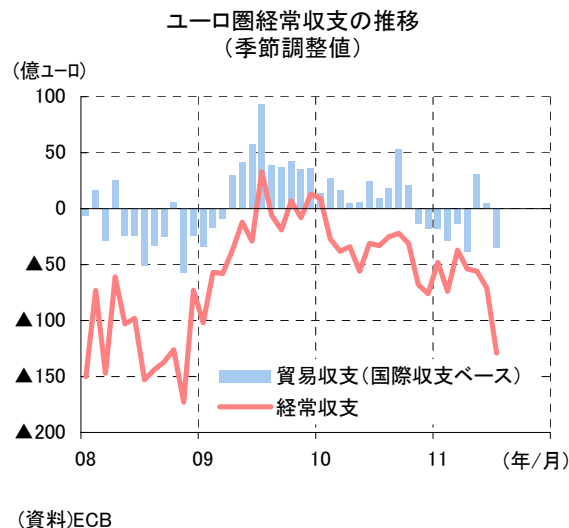
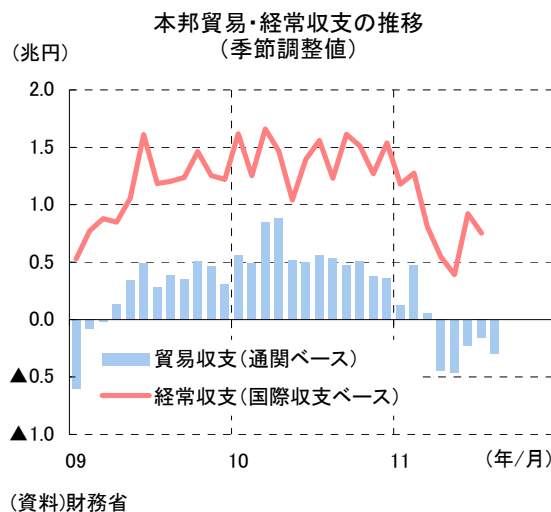
7月の米貿易赤字は、輸出が強い伸びとなる一方、資源価格の下落や内需低迷を背景に輸入が減少したことから、▲448億ドルと前月から赤字幅が縮小。実需面からのドル安圧力は緩和。

7月のユーロ圏の貿易収支は、世界経済の減速を背景に輸出が減速したことから、▲35億ユーロと赤字に転落。実需面からはユーロ安圧力に。

先行き、わが国では世界経済の減速や既往円高などにより、輸出が下振れするリスクがある一方、原発停止を受けた火力発電シフトによる燃料需要増により、輸入は高止まりする公算大。貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかる見込みで、当面、実需面からの円高圧力が和らぐ可能性。

＜日米欧の生産＞

8月の本邦鉱工業生産は前月比+0.8%と事前予想対比弱い伸び。さらに、生産計画をみると、9月は前月比▲2.5%となるなど、7月以降、鉱工業生産は足踏み状態に。もっとも、先行き復興需要を背景に欧米対比でみた生産の日本優位が続く見込みで、生産面からは円高地合であることに変化はない見通し。



日本の証券投資は、対内堅調・対外低調で円高地合いをサポートする見込み。

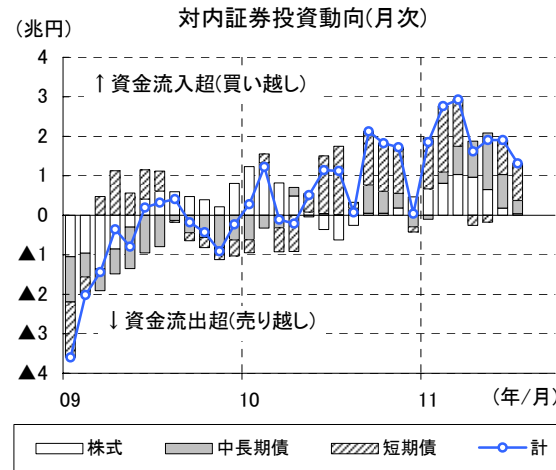
＜月次対内対外証券投資（7月迄の動き）＞

対内証券投資は、本年入り以降、買い越しが持続。世界的な景気の先行き懸念や欧米債務問題への懸念等を背景に、海外投資家のリスク回避の動きが強まり、債券への投資が堅調に推移。一方、対外証券投資は、3月の大震災以降、震災をきっかけとした手元流動性確保の必要性、株安によるリスク許容度低下等が投資抑制に作用し、低調に推移。対内対外トータルでみると、日本への資金流入超傾向が持続。

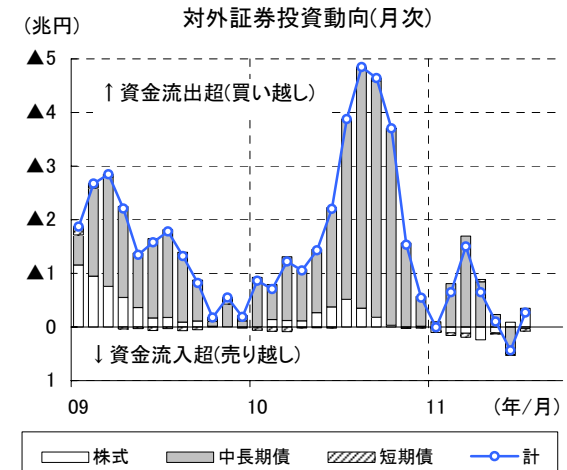
＜週次対内対外証券投資（8月以降の動き）＞

対内証券投資は、8月入り後も高水準で推移。内訳をみると、海外投資家がリスク回避姿勢を強めるなか、わが国短期債に逃避資金が流入し、8月の短期債の買い越し額が2005年1月以降で過去最高に。8月末以降は中長期債の買い越し額が増加する場面も。一方、対外証券投資は、中長期債の買い越しが急増する場面はあったものの、引き続き総じて低調に推移。対内対外トータルでみると、日本への資金流入超傾向が持続。

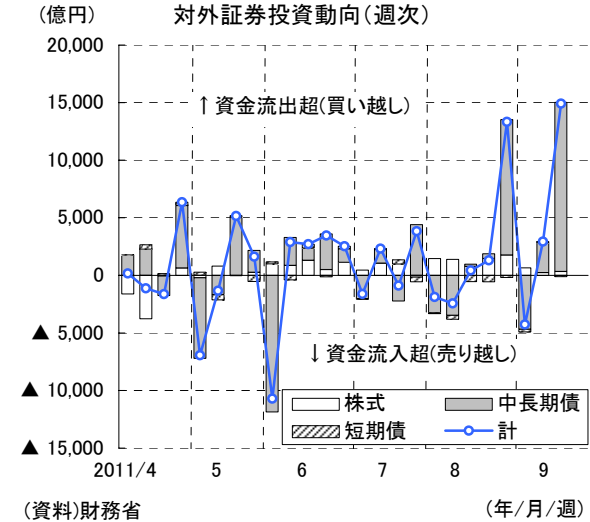
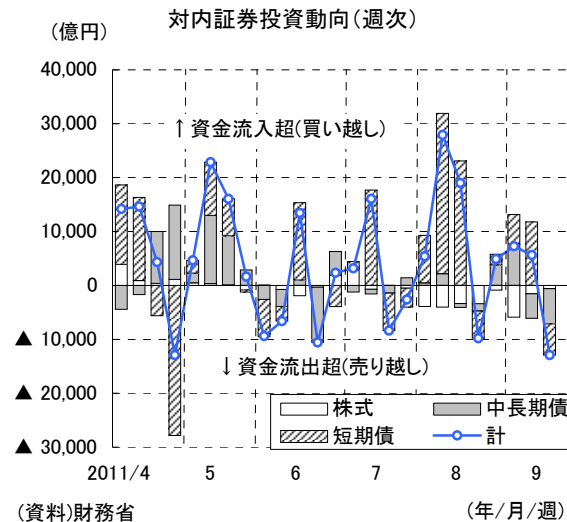
当面、①世界的な景気の先行き懸念や欧州債務問題への懸念等を背景としたリスク回避の動きが続くと予想されること、②日米間をはじめとして内外金利差の拡大が当面期待薄であること、などから、海外投資家からの日本国債への資金流入、本邦投資家の対外証券投資慎重化が続き、円高地合いをサポートする見込み。



(資料)日銀、財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。



(資料)日銀、財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。



(株)日本総合研究所 為替相場展望 2011年10月

米国の証券投資面はドル安地合い。IMM通貨先物では、円ロング、ユーロショートが一旦調整の可能性あるも、基調を変化させるには至らない公算。

＜米国の対内対外証券投資動向＞

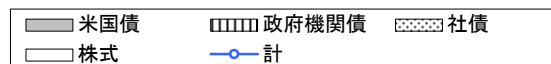
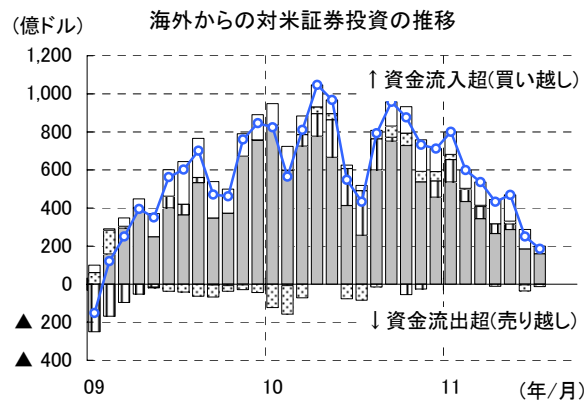
海外からの対米証券投資は、本年入り以降、資金流入ペースが鈍化傾向。一方、米国からの対外証券投資は、本年入り以降、資金流出ペースが加速していたものの、足許では急減速。対内対外トータルでみると、米国への資金流入ペースが鈍化傾向。

当面は、米景気の先行き懸念等を背景に、海外からの資金流入ペースの鈍化傾向が続く見込みで、ドル安地合いをサポートする見通し。もっとも、世界的な株安が続けば、米国投資家の資金回帰の動きが強まり、ドル安圧力が緩和に向かう可能性も。

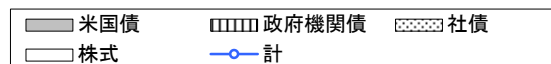
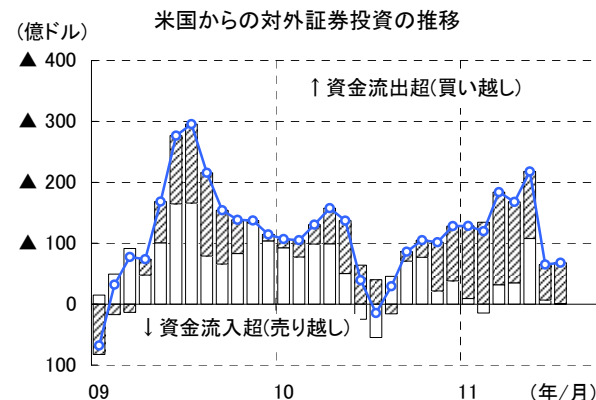
＜IMM通貨先物ポジション＞

IMM通貨先物取引（非商業部門）の円ポジションは、円の買い越し残高が9月27日時点で依然高水準。一方、ユーロポジションは、ユーロの売り越し残高が9月27日時点で2010年6月以来の高水準まで拡大。

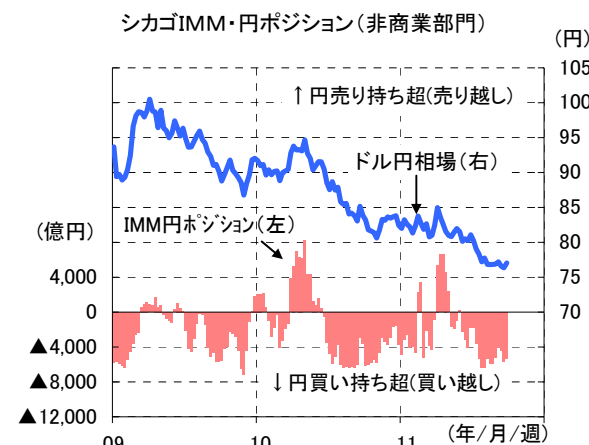
過去のIMMポジションの動きをみると、例年海外投機筋が休暇に入る秋から年末にかけて、持ち高の圧縮が発生。今年も例年通りに持ち高の調整が進めば、一時的に対ドルで円安、ユーロ高方向に振れる可能性。もっとも、米国では、超低金利政策の長期化が予想され、日米金利差が拡大しにくい状況が続くとみられること、ユーロ圏では、欧州債務問題、景気減速、ECBの利上げ姿勢撤回などにより、ユーロを買う材料が乏しいこと、を踏まえると、円高、ユーロ安基調を変化させるには至らない公算。



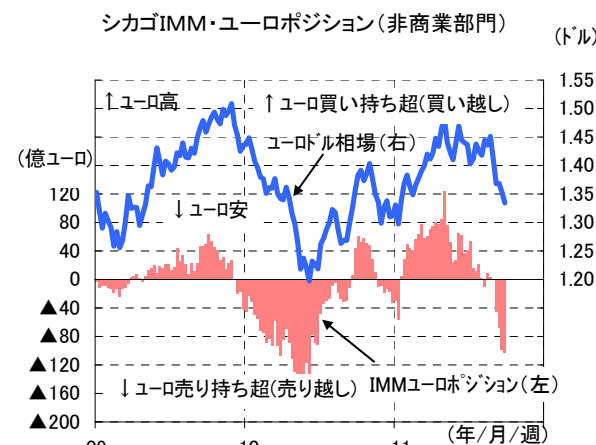
(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。



(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。



(注)直近値は9/27。
(資料)米CFTC



(注)直近値は9/27。
(資料)米CFTC

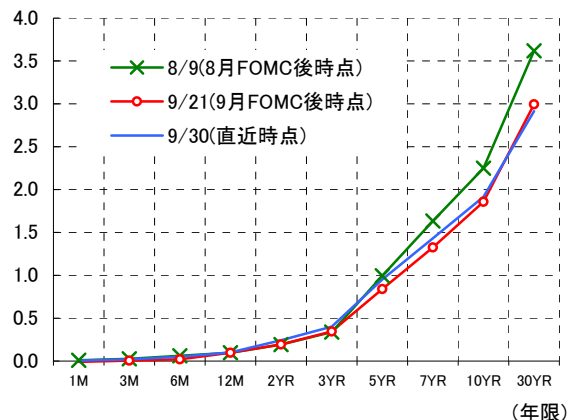
9月のFOMCでツイスト・オペを決定。足許、ドル円相場への影響はみられないものの、今後、米長期金利低下が円高ドル安圧力として作用するリスク。

9月のFOMCで米FRBは、2012年6月末までに期間6～30年の米国債を4千億ドル購入する一方、3年以下の米国債を同額売却すること(オペレーション・ツイスト、以下ツイスト・オペ)を決定。ツイスト・オペで売却が見込まれる短期の債券には金利上昇圧力がかかる一方、購入が見込まれる中長期の債券には金利低下圧力。

今後ツイスト・オペにより、米2年債利回りには需給面から金利上昇圧力がかかる一方、米FRBは2013年半ばまでの事実上のゼロ金利政策継続の意向を示しているため、米2年債利回りは当面大きく変化しない見込み。一方、2年債よりも年限が長い5年債、10年債には金利低下圧力。

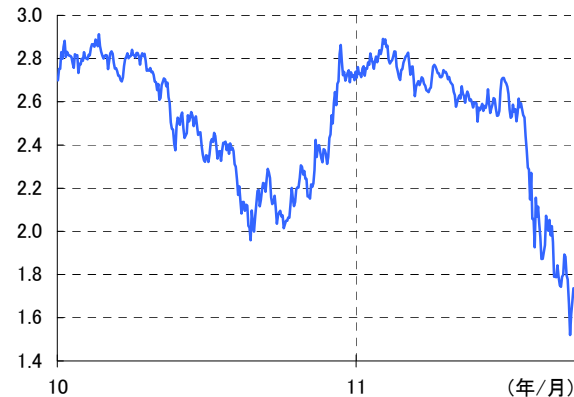
ドル円相場は、これまで米日2年債利回り格差と高い相関。同時に、5年債や10年債などとも高い相関。2年債での金利差が消失するなか、今後5年債や10年債との相関が優勢となれば、米国での長期金利低下が円高ドル安圧力として作用するリスク。ちなみに、5年債利回り格差をもとに試算すると、足許の77円はほぼ金利差に見合う水準であるものの、仮に米日金利差がゼロ近傍まで縮小した場合、73円台前半が同金利差に見合う水準に。

(%) 米国債の利回り曲線(イールドカーブ)の変化



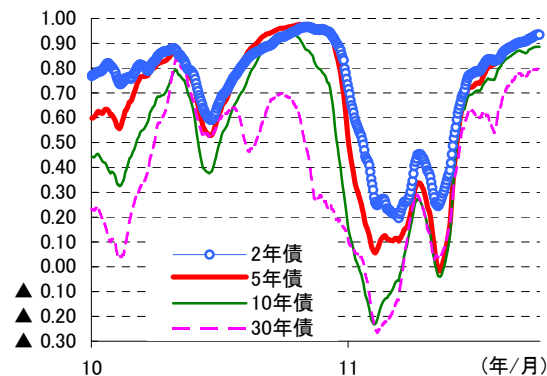
(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成

(%) 米長短金利差の推移



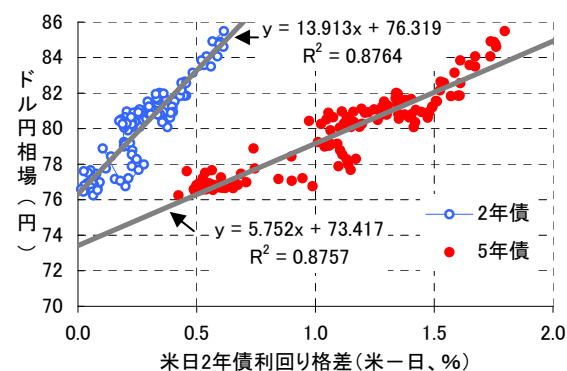
(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成
(注)米長短金利差は、10年債利回り－2年債利回り。

(%) 年限別米日利回り格差(米一日)とドル円相場の相関係数の推移



(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成
(注)相関係数は、130日相関から導出。

米日2年債、5年債利回り格差とドル円相場



(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成
(注)推計期間：2011/4/1～9/30

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2011年10月

ECBが利上げ姿勢を撤回。利下げ観測がユーロ安を助長。金利面からはユーロ安が行き過ぎの感あるも、リスク回避が後退するまで下振れが続く公算。

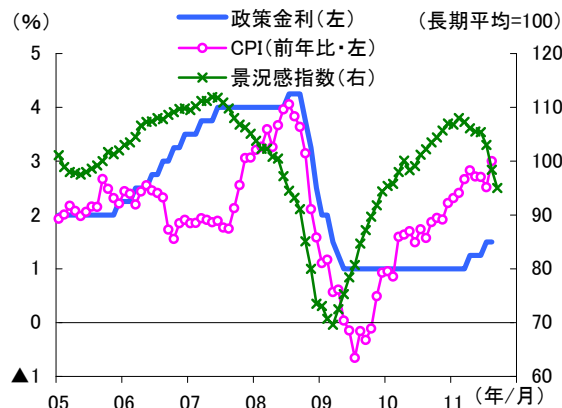
ECBは9月8日の理事会で政策金利を1.50%に据え置くことを決定。一方、景気の先行きのリスク判断を「中立」から「下向き」、物価の中期的なリスク判断を「上向き」から「中立」に引き下げ、利上げ姿勢を撤回。市場では一時ECBの利下げ観測まで台頭し、ユーロ安を助長。

9月30日に発表されたユーロ圏の9月CPI上昇率(速報)が、前年比+3.0%と前月の2.5%から大幅上昇し、利下げ観測がやや後退したため、短期的には金利面からのユーロ調整圧力は緩和する見通し。もっとも、ユーロ圏の景況感指数が急速に悪化するなか、利上げが期待薄な状況に変わりはなく、ユーロの大幅反発は見込めない状況。

一方、金利面からは足許のユーロ安水準は行き過ぎの感が否めず。独米2年債利回り格差、独日2年債利回り格差をもとに試算すると、対ドルでは1.40ドル程度、対円では107円程度が直近の金利差に見合う水準であり、直近のユーロ円103円、ユーロドル1.34ドルは、対円で4円程度、対ドルで0.06ドル程度ユーロ安方向にオーバーシュートしている格好。

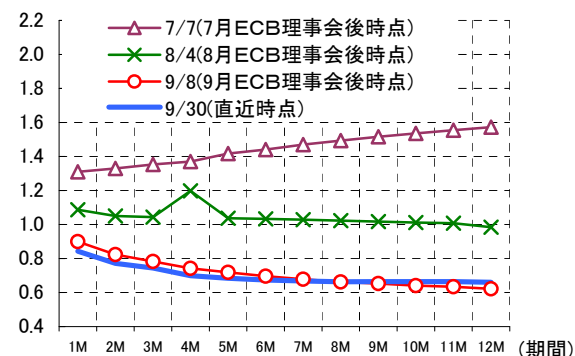
この背景には、欧州債務問題を受けたリスク回避姿勢の強まりが指摘可能。欧州債務問題に収束の兆しがみえるまでは、今後も、折に触れリスク回避の動きが強まることが予想され、金利差に見合う水準から下振れしてユーロ安が進行する公算。

ユーロ圏の政策金利・CPI・景況感指数の推移



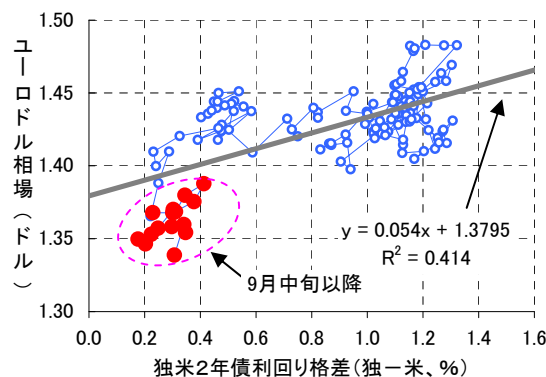
(資料)Eurostat、欧州委員会、ECB

ユーロOISカーブの変化



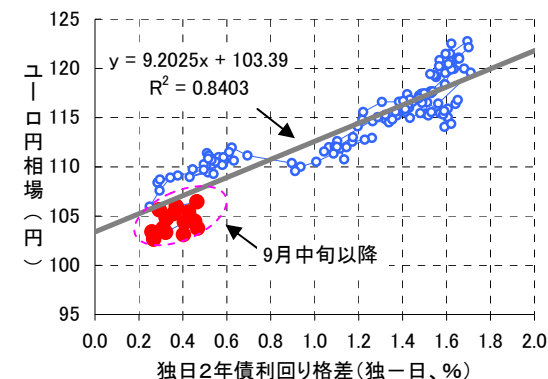
(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成
(注)OISとは、一定期間の無担保コール翌日物と固定金利を交換する金利スワップのこと。政策金利の先行きに対する市場の見方を反映する。

独米2年債利回り格差とユーロドル相場



(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成
(注)推計期間:2011/4/1~9/30

独日2年債利回り格差とユーロ円相場



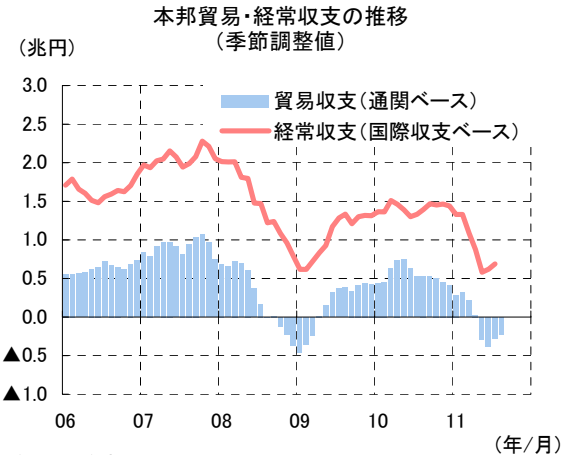
(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成
(注)推計期間:2011/4/1~9/30

経常収支黒字、証券投資は対内堅調・対外低調のなか、本邦企業の対外直接投資が足許にかけて増加傾向。増勢が続けば、円高抑制に寄与。

日本を取り巻く内外資金フローの動きに着目すると、①貿易収支の黒字基調回復にはなお時間がかかることが予想されるものの、経常収支全体でみれば、大幅黒字が続くと見込まれること、②証券投資は、対内証券投資が堅調に推移する一方、対外証券投資は低調に推移する公算大であること、を踏まえると、経常収支、証券投資による資金フローが円高抑制要因となることは期待し難い状況。

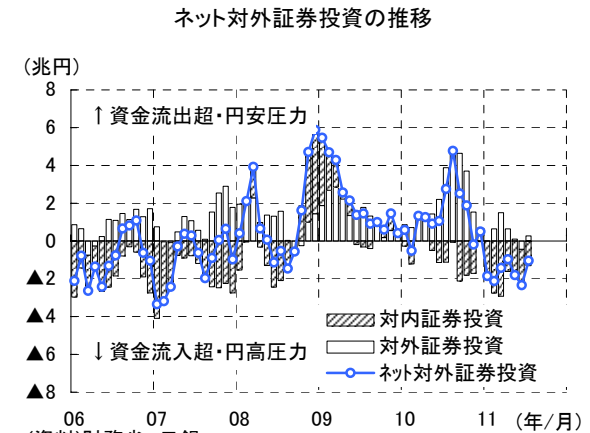
こうしたなか、本邦企業による対外直接投資が足許にかけて増加傾向。今年5月には、本邦製薬メーカーや電機メーカーによる大型の海外企業買収案件が発表されるなど、本邦企業による海外企業の買収が増加しているほか、工場の海外移転などが増加している模様。

先行きについては、海外経済の減速や、欧州債務問題の収束が見通せないなか、本邦企業が対外直接投資を慎重化させるリスクはあるものの、①円高水準の定着、②電力供給不安、③高い実効税率、④自由貿易化の遅れ、⑤厳しい労働規制、⑥温暖化ガス排出抑制、などを踏まえると、今後本邦企業が海外直接投資を活発化させる公算大。政府の円高対策「円高対応緊急ファシリティ(基金)」も本邦企業の動きを後押しするなか、本邦企業による海外直接投資の増加が続けば、円高抑制に寄与。



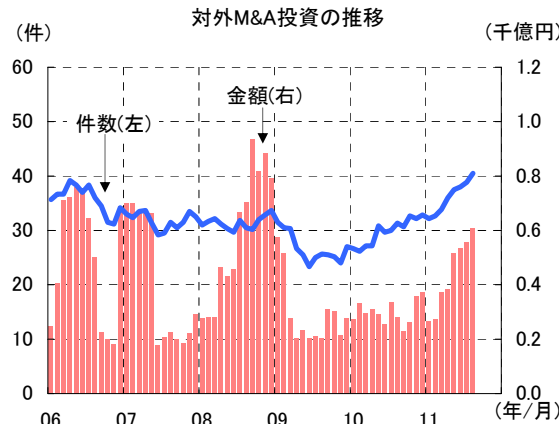
(資料)財務省、日銀

(注)いずれも3ヵ月移動平均値。



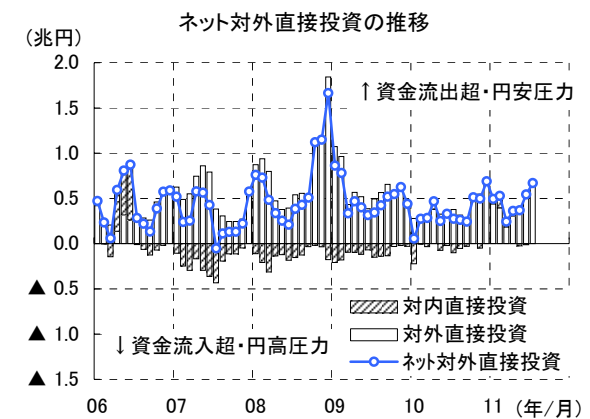
(資料)財務省、日銀

(注)いずれも3ヵ月移動平均値。ネット対外証券投資は、対外証券投資－対内証券投資。



(資料)レコフをもとに日本総研作成

(注)金額は公表されているものに限る。金額、件数ともに6ヵ月移動平均値。



(資料)財務省、日銀

(注)直接投資は再投資収益を除く。いずれも3ヵ月移動平均値。ネット対外直接投資は、対外直接投資－対内直接投資。

見通し

ドル円は76～77円台を中心とする円高値圏で推移する見通し。ユーロは欧州債務問題、景気減速、ECBの利上げ姿勢撤回等を受け、軟調地合いが持続。

＜ドル円相場の見通し＞

円売り介入への警戒感、日米金利差の縮小余地の乏しさなどから、円高進行余地は限られるとみられるものの、米景気の先行き懸念や米追加緩和期待が根強いなか、当面、76～77円台を中心とする円高値圏で推移する見通し。なお、欧州債務問題を背景にリスク回避の動きが強まる場面では、ドル、円ともにユーロに対して強含むことが予想され、ドル円では方向感が出にくくなる公算。

年末以降、米景気指標の改善や米景気・雇用対策実現への期待などにより、米景気の失速懸念が後退するにつれて、徐々にドルが持ち直す見込み。もっとも、米景気の力強い拡大が期待薄で、超低金利政策の長期化が予想されるなか、ドルの本格上昇は期待薄。

＜ユーロ円相場の見通し＞

欧州債務問題への懸念、ユーロ圏の景気減速、ECBの利上げ姿勢撤回等を背景に、当面はユーロ軟調地合いが持続する見通し。当面の焦点であるギリシャへの追加融資(第6弾)などに目途がつくことで、ユーロが買い戻される局面があるとみられるものの、目途がついてもギリシャのデフォルト・ユーロ離脱懸念、周辺国への波及懸念、金融システム不安などのかたちで、懸念が一旦沈静化しても程なく再燃する展開が繰り返され、ユーロ安値圏での一進一退が続く見通し。欧州債務問題に収束の兆しがみえるまでは、ユーロが下振れしやすい展開が続く見込み。

ドル円相場見通し

(円)

	2012年		2012年		
	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
期中平均	76.86	77	78	79	80
(高値)	81.48	80	82	82	83
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	75.95	75	76	76	77

予測

ユーロ円相場

(円)

	2012年		2012年		
	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9
期中平均	106	103	103	104	104
(高値)	117.7	108	108	110	110
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	101.9	97	97	98	98

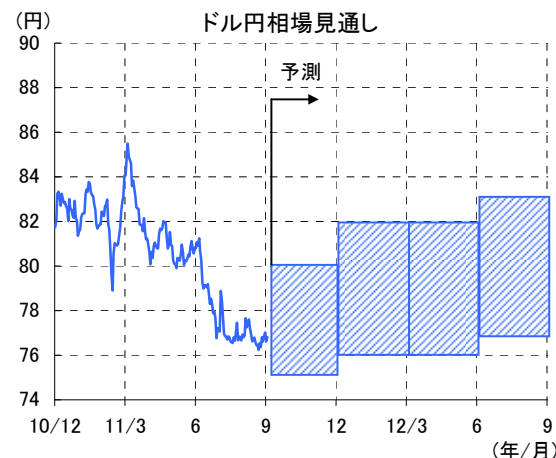
予測

ユーロドル相場

(ドル)

期中平均	1.38	1.33	1.32	1.31	1.30
(高値)	1.46	1.38	1.37	1.36	1.35
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	1.34	1.28	1.27	1.26	1.25

予測



内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3カ月 (%)	6カ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F 0/N	1-03カ月	10年国債	N Y ダウ 工業株	1-03カ月	10年国債
08/2	0.75	0.504	0.85	0.88	0.89	0.96	1.64	1.44	1.875	2.15	107.16	158.18	13547.84	2.97	3.12	3.73	12419.57	4.36	3.96
08/3	0.75	0.511	0.86	0.89	0.92	1.08	1.51	1.30	1.875	2.10	100.79	156.28	12602.93	2.60	2.85	3.48	12193.88	4.60	3.81
08/4	0.75	0.506	0.84	0.88	0.98	1.16	1.59	1.41	1.875	2.10	102.49	161.53	13357.70	2.26	3.02	3.64	12656.63	4.78	4.05
08/5	0.75	0.505	0.84	0.88	1.18	1.47	1.87	1.67	1.875	2.40	104.14	162.05	13995.33	1.99	2.84	3.87	12812.48	4.86	4.20
08/6	0.75	0.509	0.84	0.89	1.30	1.62	1.99	1.75	1.875	2.45	106.90	166.23	14084.60	2.00	2.95	4.08	12056.67	4.94	4.55
08/7	0.75	0.503	0.85	0.90	1.18	1.44	1.82	1.60	1.875	2.40	106.81	168.35	13168.91	2.02	3.00	3.97	11322.38	4.96	4.50
08/8	0.75	0.504	0.85	0.89	1.01	1.26	1.66	1.45	1.875	2.25	109.28	163.75	12989.35	1.99	3.00	3.88	11530.75	4.96	4.22
08/9	0.75	0.495	0.85	0.90	1.05	1.31	1.69	1.48	1.875	2.30	106.75	153.25	12123.53	1.86	3.95	3.68	11114.08	5.02	4.10
08/11	0.50	0.301	0.82	0.86	0.89	1.13	1.48	1.46	1.675	2.40	96.81	123.25	8531.45	0.39	3.11	3.46	8614.55	4.23	3.57
08/12	0.30	0.211	0.86	0.88	0.85	1.02	1.32	1.31	1.675	2.40	91.28	122.79	8463.62	0.17	2.47	2.40	8595.56	3.29	3.06
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.25	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.25	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.24	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.23	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.23	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.25	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.36	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.45	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.43	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.35	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.31	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.29	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.29	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.29	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.29	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.27	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1.38	3.11
11/6	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.54	1.15	1.13	1.475	1.50	80.51	115.82	9541.53	0.09	0.24	2.99	12097.31	1.43	2.97
11/7	0.30	0.073	0.33	0.44	0.37	0.53	1.13	1.11	1.475	1.50	79.47	113.52	9996.68	0.07	0.22	2.98	12515.68	1.54	2.78
11/8	0.30	0.081	0.33	0.44	0.33	0.46	1.03	1.02	1.475	1.35	77.22	110.62	9072.94	0.10	0.26	2.29	11326.62	1.50	2.25
11/9	0.30	0.080	0.33	0.43	0.34	0.46	1.00	1.00	1.475	1.40	76.84	105.89	8695.42	0.08	0.31	1.96	11175.45	1.48	1.87

（注）公定歩合とプライムレートは月末値。